

○ 新会長に人形町今半の中村敏章氏、品質の安定と新規顧客獲得がミッション HP運営は第2フェーズへ、レシピ提案など発信—TOKYO Xアソシエーション

東京のブランド豚「TOKYO X」の流通・販売関係者で組織する「TOKYO X-Association」(小石伸市会長=ミート・コンパニオン常務執行役員)は29日、東京・新宿区の京王プラザホテル新宿で2023



年度総会を開き、22年度事業報告・収支決算や23年度事業計画・収支予算などを原案通り承認した。任期満了に伴う役員改選では、会長に中村敏章氏(人形町今半精肉惣菜部部长)、副会長に両角淳(ミート・コンパニオンミートパッカー部次長)が就任したほか、新たに佐山訓久理事(そば処えびす家、東京都麺類協同組合西多摩支部支部長)を選任した。

冒頭、小石会長(=写真⑤)は「この3年間、皆様が集まるかたちでの総会開催は難しく、通常のイベントなども参加することができなかった。このようなかたちでの開催は4年ぶりとなり、私はこの4年間のなかでの会長交代となり、アソシエーションの活動も変わってきた。当初より、本総会及び懇親会の一番の目的は、多くの加盟店・関係者様からさまざまな意見をいただく場である。本日も限られた時間ではあるが、皆様の活発な意見の交流の場としていただきたい」とあいさつした。

23年度事業計画では、①流通・販売などの検討及び協議②枝肉検討会③「TOKYO X-Association事務局」ホームページ運営を第2フェーズへと展開④「TOKYO X」広報活動に対する協賛制度——などを実施する。今年度はすでに青梅畜産センターで開催された「春の家畜ふれあいデー」(4月22日開催)において、同協会販売指定店として出展している「そば処津久茂」へ「TOKYO X」の精肉を協賛。同イベントは春と秋の年2回開催されており、引続き協賛というかたちで認定店への販売促進に取り組んでいく。

一方、「TOKYO X-Association事務局」ホームページでは、「TOKYO Xを知り、体験する入口となる」ことや「認定店と消費者をつなぐ窓口となる」ことをコンセプトに19年から運営し、「TOKYO X」にまつわる紹介や都道府県別、業態別に認定店舗の検索が可能となっている。TwitterやFacebook、InstagramなどSNSとも連動し、よりアクセス数を伸ばすよう周知するなか、今年度は第2フェーズとして、料理レシピや取扱店からのメッセージといった新規ページを作成する。料理レシピでは、食材へのこだわりを持つ一般消費者を対象に、「TOKYO X」の料理のしやすさを発信することで量販店への販売促進につなげていく。取扱店からのメッセージについては、実際に「TOKYO X」を販売する取扱店から話を聞き、販売や調理する側からのリアルな魅力を発信していく。今後はアクセス解析によって第2フェーズを分析することで、将来的なマーケティング対策にも活用していく方針だ。

総会後の懇親会では、中村敏章新会長(=写真⑥)が「『TOKYO X』は当社(人形町今半)の現場の声を聞いていただきながら開発された。実際にお客様からは『クセがない』『TOKYO Xを食べたらほか



の豚肉が食べられなくなった』という声を多数いただいている。当社は創業から約130年続いているが、そのなかで“継続する”ということが大事であり、『TOKYO X』も販売し続けることが重要である。そのために品質の安定と新たなお客様を獲得すること、これが私に課せられたミッションであると感じている。今後もたくさんのお客様に多くの笑顔をいただけるように販売してまいりたい」と意気込み語った。